

授業評価アンケートは、授業に対する学生のみなさんの意見を伺い、今後の授業内容の改善を目的として各学期末に実施しています。アンケート結果は授業毎に集約し、授業を担当している教員や授業を開設している学部、学科にフィードバックしています。

2023年度春学期の授業評価アンケートは無事終了しました。大学全体での集計結果をご報告します。

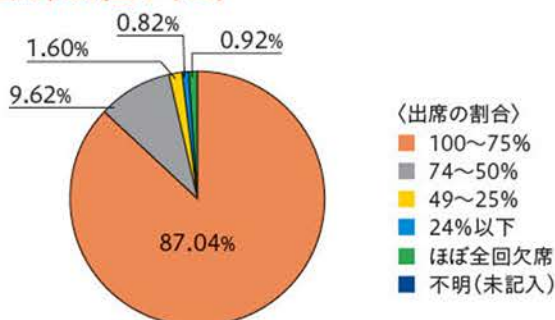
個々の授業の集計結果は、PorTaIIをご覧ください。

■ 実施状況

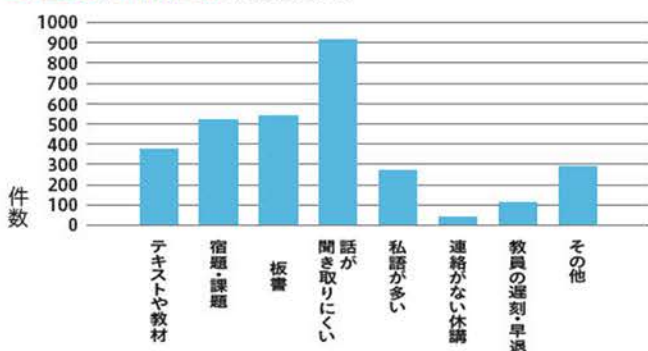
実施期間：2023年7月3日(月)～7月23日(日) PorTaIIにて実施

	対象者数	回答者数	回答率
23年度春学期	8,252	3,119	37.79%
22年度春学期	7,998	3,226	40.33%

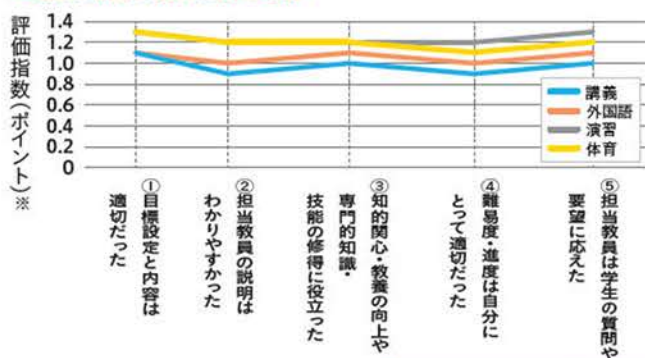
1. 出席状況(全学平均)



3. 各授業の問題点(複数選択可)



2. 授業評価(授業形態別)

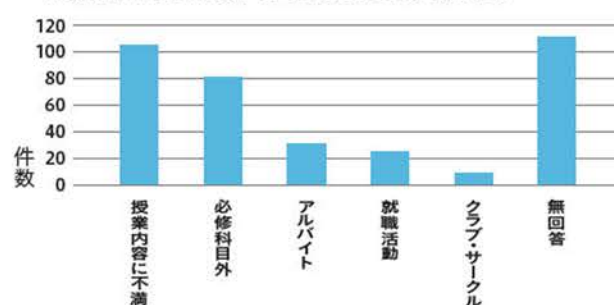


※授業に関する5項目の質問の回答を「そう思う=1.5」「ややそう思う=0.5」「あまりそう思わない=-0.5」「そう思わない=-1.5」「わからない=0」として、平均値を算出し、評価指数(ポイント)としました。

選択肢	ポイント
そう思う	1.5
ややそう思う	0.5
わからない	0
あまりそう思わない	-0.5
そう思わない	-1.5

4. 低出席理由(複数選択可)

1. 出席率が24%以下と回答した学生の欠席理由。



獨協大学の省エネ・省CO₂はどうなっているの？

獨協大学には理工系の学部はありませんが、省CO₂や省エネは進んでいます。本学にとっては経済面や環境面から省CO₂や省エネを推進し、同時期に天野貞祐記念館を起点とするキャンパス再編を行ったことがさらなる推進に繋がりました。理論的な学問として進めてきた省エネについて、具体的な事例を手に入れたことは本学にとって幸運でした。

2007年に竣工した天野貞祐記念館から始まり、以後、新たな建物に太陽光発電装置を設置し、現在は約363kWもの創エネルギーを実現しています。これは一般家庭の70軒分以上に相当します。その他、省エネ設備への置き換え、照明のLED化等により、500kWも契約電力を削減しています。

ソフト面の対策としては、施設事業課が中心になり、米山ゼミなどの学生や教職員が省エネコンサルタントと共に「省エネ推進会議」を実施しています。建物各所の電力とガス使用量を測定し、省エネコンサルタントによる解析結果を基に議論を繰り返しています。この結果をフィードバックすることで「省エネルギー推進に関する専門部会」を通して本学の省エネ・省CO₂へ繋がっています。

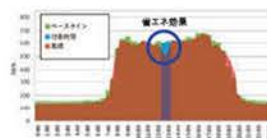
また、Earth Week Dokkyoでは、オープンな「省エネ推進会議」を開催し、学生の皆さんと共に本学の省エネ・省CO₂について議論しています。どなたでも参加できる会議を雄飛ホールで行っていますので、興味のある人は参加してみてください。さらに、Earth Weekのライトダウンの効果検証、復興事業を展開する福島県田村市への省エネ提案(たむら市政だより「ちょこっとエコライフ ～身近な省エネを実践しよう!～」など)もこの会議で議論されています。

学生教職員で考える「省エネ推進会議」、興味がある人は施設事業課にお声かけください。

省エネ・省CO₂の推進は学生および教職員ひとりひとりの意識と行動が必要です。皆様、ご協力をお願いします。



Earth Week Dokkyo期間中の公開省エネ推進会議の風景



ライトダウンの省エネ効果